

Let'sケア会議！

第11号

2024年2月発行

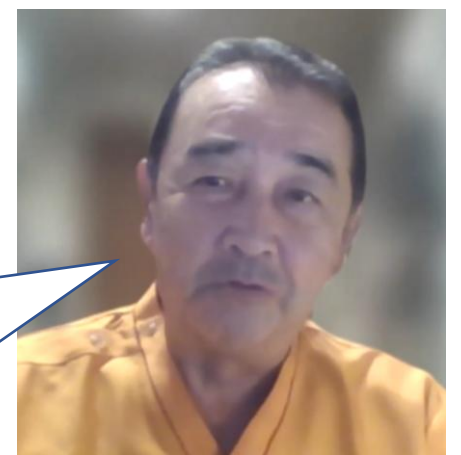
発行：鶴川圏域地域ケア推進会議

2023年度 鶴川圏域合同地域ケア推進会議が開催されました。（2023年11月24日（金）19：00～21：00）

テーマ「大災害発生！オール鶴川で乗り切るために 今、私たちができることは？」 ～それぞれのBCPを理解し、災害時の連携体制について考えてみよう～

今年度の鶴川圏域地域ケア推進会議では、来年度からすべての介護事業所に策定が義務づけられるBCPについて考え、災害時における鶴川圏域の医療体制の現状と課題、多職種連携の必要性について話し合いました。

まず町田市災害医療コーディネーターである 村野小児科アレルギー科・村野 浩太郎先生に町田市、特に鶴川圏域の災害時の医療体制についてご講義いただき、薬局と介護事業所の取り組みの現状を、推進会議メンバーから紹介していただきました。村野医師からは、



医師は震度6以上の地震が発生したら診療を中断し、自動的に災害医療体制に突入する。指定された緊急医療救護所に参集し、トリアージと応急処置を行うが、鶴川地区は拠点となる病院が南北両端にあるため、大蔵小学校が医療救護所としてどの程度機能するかが課題。
またその後の災害関連死を防ぐために、介護との連携は必須。



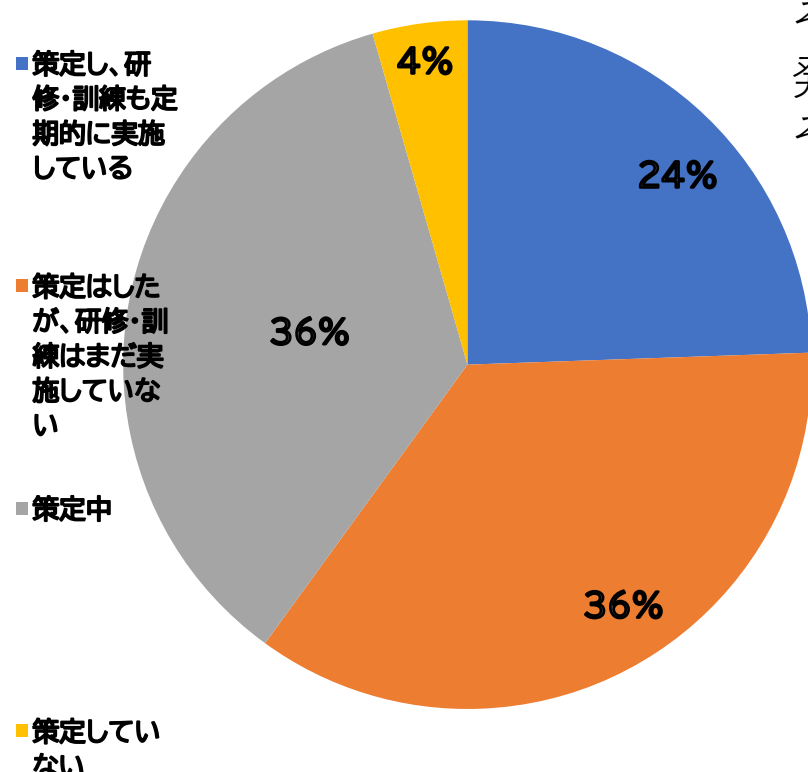
イワナガ大蔵薬局、鯨岡薬剤師からは、

薬剤師も発災3日までは各地域で医療救護活動に参加する義務がある。発災時は薬の供給が一時的に停止するので、最低1週間分は常備薬をストックしてほしい。



とのご意見をいただきました。

今回の会議に先立って介護事業所向けに実施したアンケート調査では、9割以上の事業所がBCPを作成または作成中でした。しかし実際に訓練までしている割合は2割程度で、その運用には疑問符がつく状態でした。



そこで圏域の介護事業所有志で「災害時名簿検討部会」を立ち上げ、発災時における介護事業所の対応について事前協議を重ねてきました。その結果、

- ①ケアプランに災害時の対応についての一項目を記載し、定期的に関係者で対応を確認する。
- ②災害時の情報共有ツールとしてMCSの「鶴川ICT」グループの活用する。
- ③町田市個別避難計画を作成し、優先順位付きの安否確認一覧表を作成する。



という提案を、悠々園居宅介護事業所藤井ケアマネジャーより紹介いただきました。



参加者内約（途中退場者含む）

事業所属性	内約	参加者数	割合
病院・クリニック	医師、看護師等	4	4.6%
歯科医院	歯科医師	1	1.1%
薬局	薬剤師	20	23.0%
入所施設	有料1、サ高住1、軽費2	4	4.6%
居宅支援事業所	ケアマネジャー	25	28.7%
その他介護事業者	訪問介護4、訪看1、通所3、通所リハ1、福祉用具1	10	11.5%
その他	地区社協、保健所、支援等	23	26.4%
総計		87	100.0%

感想

- ・地域の連携を考えるきっかけになった。自分自身が「なにができるのか」と考えさせられた。
- ・医療と介護の役割、各職種でできることを考え連携することの大切さを確認した。
- ・現実的な訓練をしてこなかった事に気づいた。

これからできること

- ・これまでの震災時の傾向から、発災後支援が届くまでには2週間程度かかると言われている。患者にも2週間分の薬の備蓄を伝えていく。
- ・電子お薬手帳の普及
- ・自助努力（防災グッズの準備、避難所確認、家具転倒防止等）の呼びかけの継続
- ・平常時から医療・介護・福祉が繋がっていることが大事。周囲との協力体制を作り、避難困難者リストを作成する。



*** 感想：鶴川地区社会福祉協議会 陶山慎治氏 ***

鶴川地区社協は高齢者だけでなく障害、子育て中、子供 子育て障害高齢と連携を取りながら支え合って住みやすい地域づくりに取り組んでいます。現在鶴川地区には避難行動要支援者名簿（要介護3以上、2度2級以上の障害を持つ方の名簿）上、何のサービスも使っていない方が320名。障がい者と高齢者のみの世帯が6世帯12人あります。来年度鶴川圏域が市の個別避難計画策定のモデル地区に決定し、個別避難計画を作り始めると、医療機関や介護保険事業がどんな計画を持っているかを照らし合わせて個別計画を作ることが重要だと確認できた。今回の会議をきっかけに、各事業所が他組織との連携も視野に入れ、BCPを共有できれば、更に鶴川に住む高齢者の安心につながるとの印象です。引き続き鶴川地区全体へのご協力を頂きたい。

今回、87名の方に参加いただきました。村野先生の講義や、医療・介護現場での取り組みの現状報告を聞いた後、10グループに分かれて「大災害時、私たちができることは？」というテーマでグループディスカッションを行いました。各グループからの意見・提案は以下のとおりです。

現状

- ・BCP作成はしているが周知や訓練はこれから。
- ・病院としては目の前の患者を通し日頃の医療提供体制としては地域に貢献しているが、災害時に実際に病院として何が出来何をすべきかという意識は普段は無いのが現状

課題

- ・担当CMのいない高齢者や要介護者、独居や障害、難病等災害時自力で避難できない人は必ず発生する。まずは地域にどのような人がいるかを多職種で把握し、災害時救助できるよう準備が必要。
- ・災害時の電源確保は大きな課題。

*** 総評：村野小児科アレルギー科 村野浩太郎先生 ***

今日のように一人一人が発災時の対応について考え、皆が連携し、共有して考えていくことが大切です。これまでも防災時の多職種連携について町プロの後などに皆で色々熱く語ってきました。今日も皆さんの情熱を強く感じられました。今後も多職種で連携、情報共有をして、より多くの方を助けられる鶴川を作っていきたいと思います。

鶴川圏域地域ケア推進会議では、今後も災害時の対応について、皆さんと話し合いを重ねていきたいと思います。

会議の様子をyoutube限定公開しています。視聴ご希望の方は支援センターまでお問い合わせください。

鶴川第1高齢者支援センター TEL 042-736-6927
鶴川第2高齢者支援センター TEL 042-737-7292